

天明八戊申年正月廿二日

水野出羽守殿

御渡

松平玄蕃頭殿

大目付

江

御目付

廣。東。人。參。之。義。先。年。賣。買。停。止。被。仰。出。候。處。此。度。御。糺。之。上。病。症。ニ。依。り。其。功。能。も。可。有。之。ニ。付。下。々。ま。で。容。易。に。相。用。候。た。め。向。後。前。々。之。通。賣。買。勝。手。次。第。に。可。致。旨。被。仰。出。候。右。之。通。可。被。相。觸。候。

正月

〔大成令藥種^{六十七}〕享保十九寅年五月

覺

一町醫者吉田玄庵と申者和人參製法致し藥種問屋江相渡賣弘め候間望之者江相調候様ニ町

中江可觸知者也

五月

〔松園漫筆^三〕薩摩人參は形狀鬚の如し竹節人參の鬆根なるよし氣味うすし吉野人參竹節人參の二品吉野葛城那智貴船等の山々におほくありて近代多用ゆ味甚苦して胃氣を養ふにはよろしからず用るに堪たりとて専ら用る諸醫あれども我^{松園}も數年もちひ試るに元氣を補ふの功すくなし積痞を推ひらくには功多し其外人參といふもの四五品あれども皆人參にあらざるものなれば沙汰におよばず然れば大切の病人元氣を補ふの功惟朝鮮人參の外他なし卑賤貧窮のものは價の貴に力及ばず見ながら死にいたるを待のみこゝに仁君萬民撫育の御